～フィリピン大型台風３０号
被災地支援感謝とお願い～
巨大台風直撃から２ヶ月が経ちました。日比NGOネットワークを通じての緊急支援に際してはご協力ありがとうございました。復興への歩みは始まったばかりで、息の長い支援が求められています。これからもよろしくお願いいたします。（関連記事Ｐ７）

ビラーン通信
76号

2014年1月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/hands/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

初等教育普及のための「給食支援」

バナナの葉で包んだご飯持参の子ども、トウモロコシご飯が盛られた皿を持つ子、お米はもちろん満足な食器もないのか、空の小型洗面器のようなものを手にしている子ども。その長い列の先には、カボチャ、ハヤトウリなどの入ったビーフンのスープが、大がまの中で湯気を立てていました。

短い訪問日程に、辺境にあるビラーンの学校訪問を入れるのはなかなか難しく、ジェネラルサントス空港から車で 4 時間のマグロ山腹にあるアトモロック小の給食現場を見たのは久しぶりです。

陸稲が作れる平坦で肥沃な畑がある家の子どもは毎回ご飯を持参できます。年 2、3 回のコーン収穫のあとだけ、お米が買える家もあります。お米のご飯が豊かさの象徴の山の村で、列に並ぶ子どもたちが持つお皿はそれぞれの家庭事情を反映しています。

17 年前に始めたビラーン民族に対する教育支援は、現地の要請に応える形で、まずは奨学金、次に学校建設、教材支援と続き、給食支援は遅れて導入されました。今回給食現場を見て、改めてすべての子どもが初等教育を受ける上で、給食は不可欠の支援と感じました。調理にあたる母親たちが、裏庭の野菜でも十分栄養価の高い食事作りができることを学ぶ場としても貴重な機会です。

レイクセブのチボリの里子の場合は、前号で報告のように、収入から推して、ご飯弁当持参が可能な子どもが増えたと思われますが、SCMSI 校では毎日給食があります。たとえ少数でも、朝食なしで登校するような貧しい家庭の子どももいるはずですから、今年度はオーストラリアの支援によるというSCMSI の学校給食は、すべての子どもが初等教育を終了する上で重要な役割をはたしているようです。

先日、女子教育の権利を唱えて銃撃されたパキスタンの少女マララさんのインタービュー番組を見ました。紛争や内戦が続く国、宗教や因習に縛られる社会等、世界には、教育の権利主張やその支援に命がけで臨まなければいけないケースがあることを改めて思いました。

私たちの関わる山岳部先住民族の教育支援も平たんな道のりではありませんし、ましてや、貧困問題解決というゴールは見えません。しかし初等教育普及については、給食支援や、半年前のバンリ分校開設（74 号 P4）のように、学校がない村に、雨露凌ぐ小屋を作り、教師一人派遣することで改善することができます。キアミでは、2 年前の吊り橋設置支援により、川向うの小学校通学が可能になりました。

公立小学校が増えて初等教育普及率が高いレイクセブの場合も、SCMSI の 3 小学校、特にベネフとラヒット校の存在は、低学年の子どもが安全に通学するうえで欠かせません。11 月のベネフ校訪問時にも、ガンダム代表から、公立小学校までは遠い子どもが多い等、通学環境の説明を受けました。

初等教育普及と、貧困ゆえに中等・高等教育を受けられない子どもたちを支える奨学金事業充実のため今年もご協力よろしくお願いいたします。　（山﨑）